

〔5〕特別活動による実践

(1) 主体的に計画・運営にあたらせた集会活動の実践〈学部集会〉

① 取り組みについての基本的な考え

高等部では、学部集会と称し、毎月、集会活動を行っている。生徒たちは、みんなで一緒に活動することは好きで、生き生きと参加するが、自分たちの力で計画・立案することはまだ難しく、支援が必要である。

そこで、取り組みにあたっては、学部集会の実行委員会を組織し、企画の段階から教師も話し合いに参加して、生徒の思いを引き出しながら助言を与え、できるだけ青年期らしい活動を取り入れた計画・運営に当たらせたい。そして、これからの学校生活、卒業後の生活の中で、個性を生かしながら、周囲の人と協力して楽しく豊かな生活を築いていく一助となれば願っている。

② ねらい

- 生徒に主体的に計画・運営にあらせることで、自主性を育てる。
- 仲間意識を持ちながら、協力して学部集会をやり遂げることで協調性を養う。
- 高校生らしい雰囲気大切にしながら、活動そのものを楽しむ。

③ 指導の方針と手だて

- まず、生徒たちの思いを引き出し、教師の思いも盛り込みながら一緒に組み立てていく。組み立てたものをどう準備し、運営していくかについても丁寧に話し合いながら決めて準備していく。教師は意図を持ち支援しながら生徒が活動できるようにし、活躍の場を十分に与える。
- 計画から当日の会まで、協力しながら運営したり、参加したりすることで連帯感や仲間意識を持つことができるようにする。
- 高校生らしさを大切にしたい題材を取り入れる。時には、生徒たちの発想にないことでも教師が投げかけて挑戦できるようにし、活動の幅を拡げる。

④ 指導の実際

a 実行委員会の運営

- ・実行委員の任期は前後期の2期制とし、4名で構成する。前期は3年生、後期は来年度へつなげる意味も含めて2年生が担当する。
- ・実行委員会は長休憩や昼休憩を利用して児童生徒会室で行う。
- ・実行委員会で、学部集会でみんなでしたいことを出し合い、計画の構想を練る。さらに、各学級へ構想を伝えるとともに、要望意見を聞き調整する。
- ・実行委員は、計画に従い、先生方や学級に発表や準備について依頼する。
- ・学部集会当日の運営をする。
- ・学部集会の反省をし、次回の集会に生かす。

b 学部集会の展開の様子

実行委員会を中心に計画・準備された学部集会の展開の様子について、9月・10月の例を取り上げて記してみたい。

9月は、「フォークダンス（オクラホマミクサー）」と「I先生の話」を中心に、次のよ

うに展開をした。

活 動	支援と生徒の様子
<p>(進行 U男)</p> <p>1、はじめのことば (E子)</p> <p>2、フォークダンスを楽しむ。 ——オクラホマミクサー——</p> <p>3、I先生のお話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼い頃から学生時代までの思い出 ・自分の趣味や得意なこと <p>4、10月の行事予定を知る。 (E先生)</p> <p>5、おわりのことば (C子)</p>	<p>1、やや落ち着かない面があるので、繰り返し練習した短い内容を、「落ち着いて」と合図を送りながら言えるようにした。やや早口だが、最後まではっきり言えた。</p> <p>2、教師も仲間として輪の中に入り、一緒に楽しんだ。上手に相手を変えながら踊っていた。男女を意識してお互いに照れながらも、嬉しそうだった。</p> <p>3、生徒が自分と比べながら聞け、これからの生活への意欲にも結びつくような配慮をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青春時代の思い出を中心に話す。様子が具体的にわかるよう、思い出の写真が示されながら話が展開したので、生徒は大いに興味や関心を持ちながら聞いていた。質問もたくさんあり、話が次々と発展し盛り上がった。 ・自分の趣味や得意なことの話では、描かれた大きな絵が示されたり、得意な手品が実際に実演されたりして、生徒を驚かし、楽しむようにした。 <p>4、生活に見通しを持たせるようにするため、来月の予定を知る。現場実習への見通しを持つことができた。</p> <p>生徒がいつでも確認できるように、短冊カードに書いて、掲示した。</p> <p>5、自分の気持ちも盛り込んだ内容を事前に考えて練習しておき、紙を見ながら言わせた。ゆっくり落ち着いて言うことができた。</p>

フォークダンスのオクラホマミクサーは、7月の校外宿泊学習で一度経験しているためか、上手に移動しながら楽しんで踊れるようになってきた。若者らしい歌やダンスを楽しむことの喜びを味わわせることは、とても大切なことである。また、人生の先輩としてのI先生の話は、青年期にある生徒たちの心をとらえたようであった。



フォークダンスを楽しむ

10月の学部集会では、「名曲に親しむ」「現場実習の心構え」を中心に展開した。

活 動	支援と生徒の様子
<p>(進行 C子)</p> <p>1、はじめのことば (E子)</p> <p>2、名曲に親しむ。(Y先生) 「トゥナイト」</p> <p>3、現場実習の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年 ・ 2年 ・ 1年 <p>4、先生のお話 (H先生) 「現場実習へ向けて」</p> <p>5、11月の行事予定を知る。 (E先生)</p> <p>6、おわりのことば (U男)</p>	<p>1、落ち着いて言うよう声かけをした。3文くらいの言葉を覚えて言えた。</p> <p>2、「トゥナイト」の曲が歌われる映画の中の場面のビデオを映しながら、おおよその映画のあらすじ・歌っている状況・歌詞の意味等を知らせながら聞かせた。生徒たちは、英語はよくわからないが、映画や曲の大人らしい雰囲気を楽しんでいた。</p> <p>3、明日から始まる現場実習が進路に関わる重要なものであることを、改めて確認させるために生徒一人ひとりに実習先や目標を発表する場を与えた。真剣な態度で、一人ずつ発表していった。</p> <p>4、現場実習へ向けて、ねらいを確認し、意欲づけをした。適度な緊張感の中で聞き、自覚を深めることができた。</p> <p>5、来月の予定を知らせることで、生活に見通しが持てるようにした。現場実習から学習発表会までの流れをつかむことができた。</p> <p>6、自分の気持ちも盛り込んだ内容を事前に考えて練習しておき、紙を見ながら言わせた。ゆっくり落ち着いて言うことができた。</p>

生徒たちは、日頃映画や映画音楽に親しむ機会は少ないので、今回の「名曲に親しむ」がよい刺激となり興味を持ってくれたらと期待している。また、今月の学部集会は、現場実習に入る前日に計画し、心構えを確認しようとした。やや緊張感のある会となったが、高等部では、このような面も必要だと考える。以上、9月・10月の例を取り上げたが、他にも、歌、ゲーム、行事の思い出等、その都度工夫しながら内容を考え運営してきた。

⑤ 反省と今後の課題

生徒たちは、ある程度パターンを身につけ、進行も上手になってきており、自分達の学部集会だという自覚も持ちつつある。そして、自分達の生活に関連する内容を取り上げようとしたり、「〇〇先生の話が聞きたい」と意見を出せるようになってきた。これからも、生徒の考えを大切にしながらも、教師が「こんな高校生らしいこともしてはどうか」と投げかけることによって、ますます発想をふくらませたい。また、生徒たちの意見をもとに、じっくり計画・準備をさせたいと思うものの、時間が足りないのが現状である。さらに、自分達で企画・運営する力をつけ、任せきる場面もつくっていききたい。(小杉)

(2) 生徒たちが主体的に運営し、力一杯活動しきることをねらった実践

＜3年・ホームルーム活動＞

① 取り組みについての基本的な考え

ホームルームの時間は、本来、生徒たちによる主体的な取り組みであり、友だち同士の関わりの場面が設定しやすい。また、生徒一人ひとりの特性に応じたいろいろな活動が可能で、その子なりの活動を認めたり、保障する場面が多くある。

ところが、現実の生徒たちの日常生活を見ていると、自分たちで考え、決めて、活動する場面は比較的少ない。だからこそ、より一層そういった経験は大切であり、繰り返し経験して身につけていくようにしたい。また“友だちと一緒に活動して楽しかった”という経験を増やすことで、積極的に友だちと関わろうという意欲や態度を育てることができ、友だちとの関わり方の技能も高まってくるので、生徒同士の関わりがないわけではないが、まだまださまざまな場や時間を設定して関わりの場を保障したり、教師がさり気ない援助をしたりすることが必要である。生徒は今までに、ホームルーム活動や児童生徒会活動、学部集会など経験を積み重ねてきているので、経験を生かしながら、少しでも見通しが持て、こんな活動がしたいという思いを持つことができやすい。さらに、話し合いによって、内容やルールが自由に決められたり、生活経験のなかから考えることができたりすることから、いろいろな発達段階の生徒に活動が保障でき、生活経験を広げることができると考えられる。

以上のような理由から、生徒自身が自分の考えを持ち、活動に主体的・意欲的に関わることで、活動のなかに喜びをみいだすことができ、卒業後の豊かな生活づくりにもつながることができると考え、年間を通じた取り組みをしていくことにした。

② ねらい

- ・生徒たちが主体的に計画・運営し、力一杯活動しきらせることで、満足感を持たせる
- ・友だちと関わろうという意欲や態度を育て、関わり方の技能を高める。

③ 指導の方針と手だて

a 話し合い活動

教師は、生徒から相談を受け、助言するという姿勢を取り、その際いくつかの例を提示し、そのなかで生徒が決められるようにする。一部の生徒の意見のみで決まりそうなときは、他の生徒にも聞いてみるように促し、たくさんの生徒の意見が取り入れられるように配慮する。どの生徒もなんらかの係を分担し、準備の時間を保障して、友だちとの関わりを楽しみながら活動できるように支援する。

b 実際の活動場面

できるだけ生徒たちの力で運営をすることで“自分たちの会”という意識を持って取り組むようにする。教師は、学級の仲間の一員として入りこみながら、場を盛り上げるような声かけやさり気ない援助をし、うまく会に入りこめない生徒への配慮をしたり、力一杯活動しきらせるための援助をする。

④ 指導の実際

a 年間計画の作成

自分たちのしてみたい活動を次のように挙げ、一年間の計画を立てていった。

表-8 ホームルーム年間計画

月	4	5	7	9	12	1
内容	立案	お茶会	すもう大会	サッカー大会	クリスマス会	カラオケ大会
担当者	担任	V男 D子	Q男 T男	P男 R男	S男 U男	C子 E子

各会に担当者を決め、原案作成、進行をすることにした。担当者決定は、各会の内容を見ながら、自分なりの思いを持ち、立候補して決めていった。一年間の見通しを持つことができ、だれもが自分のしてみたい会の担当をすることができるということで、自分の役割を具体的に見通すことができ、意欲付けができた。

b 「サッカー大会」

○ねらい

- ・自分の考えを持ちながら話し合いに参加することで、主体的に取り組む。
- ・自分たちの決めたルールでカー杯サッカーのゲームを楽しむ。
- ・友だちと協力して、準備や会をする。

○指導計画

第1時 サッカー大会の計画を立てて、準備をしよう

第2時 サッカー大会をしよう

○実践例

- ・話し合い活動



腕相撲大会

学習活動	教師の意図・支援	評価
1. 本時に話し合うことについて知る。 2. サッカー大会の話し合いをする。 ・プログラムについて	1. サッカー大会の日時や場所を知らせることで見通しを持たせ、意欲的に取り組ませる。 2. 生徒たちの思いを大切に、できるだけ生徒たちで考え、決めて行くように指導者はできるだけ、声かけを控えるようにする。 司会の生徒がうまく進行できなかったり、考えをまとめることができなかったときに、脇の方で、そっと司会の言葉を教え、話し合いが進むようにする。	1. 日時や場所を知らせることで、具体的なイメージを持った計画になりやすかった。 2. 今までの経験を基にたくさんの生徒が意見を言った。決めるときには、多数決を採らせどれかの考えに決めさせるようにし、話し合いのなかに少しでも全員が参加するようにした。 会の進行や板書をするの難しい生徒2名が今回の担当になっており、また夏休み後すぐということでも十分打ち合わせや練習ができなかったことから、教師が、協から教える場面が多くなってしまいがちであった。 教師が事前に予想していた係以外の係（終わりの体操・はじめの体操）が出てくるなど、具体的にサッカー大会を考えて意見が言えた。
・係について	係は生徒の意欲を大切にするために立候補で決める。	教師が事前に予想していた係以外の係（終わりの体操・はじめの体操）が出てくるなど、具体的にサッカー大会を考えて意見が言えた。
3. 係に分かれ準備をする。	3. 教師は、ゲーム係と、その他の係に分かれ、それぞれの話し合いの中に入り込んでいく。	3. 話し合いが延びてしまい十分な時間がとれずこの係も中途半端で終わってしまった。

<p>4. 後片付けをして、進行状況を報告する。</p>	<p>進行係・歌係・あいさつの係については基本的には、自分でまず考えて、その後で教師と一緒にもう一度見直し、繰り返し練習していくことで自信を持つようにしむける。</p> <p>ゲーム係については、教師が一人グループの中に入り込み、アドバイスをしながら決めて行くようにする。その時に教師の意見の押しつけにならないようにする。</p> <p>4. みんなで協力して片付けるように、声かけをする。 進行状況を報告することでいい会にしようという意欲を高め、当日までにできていないところをしっかり準備していこうという気持ちを育てる。</p>	<p>歌係、あいさつ係は、教師に相談しながら自分たちで取り組み、当日も自信を持って活動した。</p> <p>進行係については、進行の言葉を考え、一応の流れはつかませた後で、模造紙にプログラム書き、それを基に進行していくようにした。</p> <p>ゲーム係については、決める内容がたくさんあり、生徒から援助を求められれば、話し合う内容を事前にメモして提示するつもりであったが生徒が自分たちの力で原案を作りたいという思いを持っており、その場でアドバイスをしながら話し合いに参加していった。</p> <p>4. 自分たちだけでは、残ったところをどうしたらよいか分からない生徒が多く、具体的に準備の続きをどうするのか考える場面を作ることで当日までの流れやしなくてはいけないことが自分なりにつかめ、有効だった。</p>
------------------------------	---	--

・実際の活動場面

教師はできるだけ生徒たちの力で運営できるようにしむけた。そうすることで、生徒同士で助け合ったり、自分たちで会をして楽しかったという満足感を味わったり、考えながら活動する場面が増えたりする。実際に、進行役の生徒は、つまりながらも、事前に模造紙に書いていたプログラムを手がかりに会を進行し、困った様子を見せたときはまわりにいる生徒が声をかけるといった場面が見られた。教師は生徒と一緒にゲームに参加しながら、パスを回したり、ゲームメイクをしたりして、みんなが楽しくなるようにしたり、応援をしながら声をかけたりして雰囲気盛り上げたり、みんなが参加できるように心がけていった。生徒たちから、楽しかったという声が聞かれ、満足そうな様子が見られた。

⑤ 反省と今後の課題

主体的な取り組みにより意欲的に活動し、力一杯活動しきることで満足感を持つことをねらって取り組んできたホームルーム活動である。会を重ねるごとに、生徒たちのなかに見通しもでき、話し合い、準備、活動とも次第に自分たちでできる場面が増えてきた。いろいろと自分たちで工夫できることもわかってきて、楽しんで計画を立てたり、会をしたりといった雰囲気が生まれてきつつある。そのなかで、友だちとの関わりを楽しむ事も増えてきている。生徒たちの発想や思いは教師の考えを超えていたり、意図と違っていたりすることも多く、生徒たちが主体的に活動ができるようにしようとすればするほど、教師の事前の予想や配慮・支援の工夫といったものが大切であることを痛感させられる。

この取り組みにより、人と関わり合うことのよさを少しでも感じ、卒業後の生活に生かしてほしいと願うとともに、学生生活のすばらしい思い出になるようにしていきたい。

(遠藤)